

ひとくどり 人來鳥



大野町立中小学校
コミュニティ・スクールだより
第25号
令和3年11月26日

うぐいすの別名：地域の皆さんが地域の学校に集い共に子どもたちを育てていく願いを込めて

郷土文芸「狂俳」を学び、文化的行事を体験しました

中小学校6年『秋季文芸大会』開催

今年度は1学期に、6年生のふるさと学習の一環として、狂俳教室を行いました。「狂俳」とは、江戸時代後期に俳諧をもとにして岐阜で生まれ、美濃地方を中心に普及した、最も短い定型詩です。季語を用いて五・七・五の17音で詠む俳句とは違い、狂俳は、与えられたお題に対して、五・七または七・五の12音で面白くユーモアに富んだ句を作ります。

昨年度に引き続き、地域講師として指導してくださったのは、東海樗流会^{ちよりゅうかい} 十二世細味庵宗家^{ほそみあん} 先生です。先生から児童一人一人の作品にアドバイスをいただき、狂俳づくりの楽しさを味わう中で、「もっとやってみたい」と意欲を高める子も多く見られました。そこで夏休みの課題として取り組んだ作品をもとに、2学期に大会を開く計画を立てました。

今回の文芸大会では、児童30人が10句ずつ投句し、300の作品の中から60句が選ばれ、順に発表されました。選者の先生が拍子木を打ちながら、朗々とお題と句を読み上げられ、続いて担任が作者名を発表すると、会場から拍手が起こります。句が書かれた短冊が作者の手元に届けられると、どの子どもとても嬉しそうでした。仲間の作品のよさを味わいながら、次は誰の句が読み上げられるか、ドキドキして待っていたようです。

日頃の授業と一味違ったわくわくした気持ちで、しっとり落ち着いて作品の発表を聞き、言葉選びや語感の面白さを感じ取る、楽しいひと時となりました。郷土文芸「狂俳」の魅力を知る貴重な文化的行事でした。これからの人生で、長く続けられることも魅力の一つということです。



6年児童感想より

「見返し」(上位12句)に選ばれた作品を紹介します

○みんなが作った狂俳を楽しめたいし、ずっと長く楽しめるということに共感しました。いい狂俳が作れるととてもうれしいです。岐阜で生まれた身近な狂俳をこれからも楽しみたいです。

○狂俳を作って、どれほど楽しいか改めて分かりました。入賞作品が選ばれるドキドキ感や、友達の狂俳を聞いてなるほどと思うことがたくさんあって、楽しかったです。

○他の人の作品を聞いて、自分が考えていなかった言葉などがたくさんありました。言葉が似ているも想像できる風景が違ったりして、おもしろかったです。この狂俳は、岐阜県で昔から続いている大切なものなので、私も大切にしていきたいです。

お正月	初日の出	みんなで拝む
先生	時に厳しく	おもしろい
むつかしい	海か山かを	選んどうる
運動会	みんなで頑張り	楽しもう
お正月	朝の挨拶	おめでとう
お母さん	おいしいご飯	ありがとう
十五夜	満月とても	美しい
やかましい	工事現場の	音がする
お寺	ご先祖様に	会いに行く
好き	長い休みで	会えないね
虫の声	静かな場所で	鳴いている
先生	いつも勉強	ありがとう
進吟	健やかに	伸びる麦の芽
		遅く
		先生

林で畑で手に取って 実りの秋にっこり

1年:どんぐり拾い



2年:サツマイモ掘り



3年:柿の収穫体験



今年も各学年のふるさと学習では、季節を通じて自然に親しみ、野菜栽培や農作業等を体験して、教室では学べないことを大いに学ぶ機会をいただきました。実りの秋を迎え、収穫する体験は子どもたちにとって、とりわけ楽しみな活動です。

1年生は、町バスで運動公園近くの自然散策路に出かけ、生活科の秋見つけの学習として、どんぐりや落ち葉等を拾ってきました。後日、それらを材料にした工作にも取り組みました。

2年生は、学校東側の畑に自分たちで苗を植えたサツマイモの成長を楽しみにしていましたが、掘り出してみると、子どもたちの顔より大きなサツマイモがたくさん穫れて大喜びでした。

3年生は、先生に畑で指導をしていただき、一人一人が専用のハサミを使って柿の実を収穫させていただきました。先日は共選場の見学にも出かけ、大野町自慢の柿について興味深く学習することができました。お世話になった地域の皆様、ありがとうございました。